



2022年11月11日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 フ ォ ー シ ー ズ H D
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 天 童 淑 巳
(コード番号 3726 スタンダード市場)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 上 畠 正 教
(TEL. 092-720-5460)

**営業外費用及び特別損失の計上並びに通期連結業績予想と連結業績との差異、
個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、本日2022年11月11日開催の取締役会において、2022年9月期の連結決算において、営業外費用及び特別損失の計上を決議するとともに、2022年5月13日に公表した2022年9月期の連結業績予想につきまして、実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2022年9月期の個別決算においても、前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 営業外費用及び特別損失の計上並びにその内容

(1) 営業外費用（関係会社貸倒引当金繰入額）の計上（個別）

当社は、連結子会社である株式会社HACCPジャパンの財政状態を勘案して債務超過相当額の関係会社貸倒引当金を計上しておりますが、当連結会計期間において、債務超過額を回復するに至らなかったため、債務超過相当額まで関係会社貸倒引当金繰入額46百万円を営業外費用として計上しております。

なお、関係会社貸倒引当金繰入額は、個別財務諸表のみに計上されるものであり、連結財務諸表への影響はありません。

(2) 特別損失（アロマ事業の固定資産の減損損失）の計上（連結）

当社のアロマ事業の固定資産につきまして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などによる消費者のリテール店舗への戻りは鈍く、売上高及び、収益性の低下を認識したことから、減損の兆候が認められた資産グループについて「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、同事業における固定資産32百万円の減損損失を計上することといたしました。

2. 通期連結業績予想と連結業績の差異について

(1) 2022年9月期 通期連結業績予想と連結業績の差異 (2021年10月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	2,888	9	9	19	2.64
当期実績 (B)	2,324	△119	△116	△156	△21.76
増減額 (B-A)	△563	△128	△125	△175	—
増減率 (%)	△19.5	—	—	—	—
(参考) 前期連結実績 (2021年9月期)	2,469	△148	△150	△178	△24.94

(2) 差異の理由

2022年6月28日に公表いたしました「子会社に対する仮処分命令申立てに関する和解成立のお知らせ」に記載のとおり、主力商品である「ナチュラルアクアジェル」を2023年7月まで中華人民共和国等で、製造及び販売を行わないこととなったことから、化粧品卸事業で当初見込んでおりました海外への販売ができなくなったこと、景気等先行き不透明感が続き見通しが立ちにくいなか、コロナウイルス禍によるダメージが想定以上に大きく、アロマ事業においては消費者のリテール店舗への戻りは鈍かったことなどから、売上高及び営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が業績予想を下回る結果となりました。

3. 個別業績と前期実績値との差異について

(1) 2022年9月期 個別業績と前期実績値との差異 (2021年10月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前期実績 (A)	309	22	△13	△129	△18.12
当期実績 (B)	1,404	△72	△136	△172	△23.99
増減額 (B-A)	1,095	△94	△123	△43	—
増減率 (%)	354.5	—	—	—	—

(2) 差異の理由

当社は2022年1月1日に、連結子会社である株式会社フェヴリナ及び合同会社アロマを吸収合併し、事業持株会社となったことから、売上高が大きく増加いたしました。

一方、アロマ事業のセグメント損失計上に伴い営業利益は減少し、経常利益及び当期純利益につきましては、上記「1. 営業外費用及び特別損失の計上並びにその内容」に起因して減少いたしました。

以上